

# 令和5年度 全国体力・運動能力、運動習慣等調査における

## 北九州市立 小倉中央 小学校の結果分析と今後の取組について

スポーツ庁による「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」について、令和5年6～7月に、5年生を対象として、「体力・運動能力」と「運動習慣等」についての調査を実施いたしました。（熱中症等の予防の観点から、20mシャトルランについては、5月中旬から6月上旬に実施しています。）

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

本結果は、学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にしていただきたいと思います。また、運動習慣については、学校のみでなく、家庭で運動を一緒に「する・みる・話す」ことが大切です。本校では、運動習慣の確立と授業の充実により、総合的に体力の向上を目指しています。ご家庭でも運動習慣の確立に向けた取組の充実をお願いします。

※ 本調査により測定できるのは、体力・運動能力の特定の一部です。

### 1. 調査の目的

- (1) 国が全国的な子供の体力の状況を把握・分析することにより、子供の体力の向上にかかる施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 各教育委員会が自らの子供の体力の向上に係る施策の成果と課題を把握し、その改善を図るとともに、子供の体力の向上に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
- (3) 各学校が各児童生徒の体力や運動習慣、生活習慣等を把握し、学校における体育・健康等に関する指導などの改善に役立てる。

### 2. 調査内容

#### (1) 実技に関する調査

[8種目] 握力、上体起こし、長座体前屈、反復横とび、20mシャトルラン、50m走、立ち幅とび、ソフトボール投げ

#### (2) 質問紙調査

運動習慣、生活習慣等に関する質問紙調査

### 3. 体力・運動能力に関する調査結果の概要

全国・本市・本校の実技調査の結果

<男子>

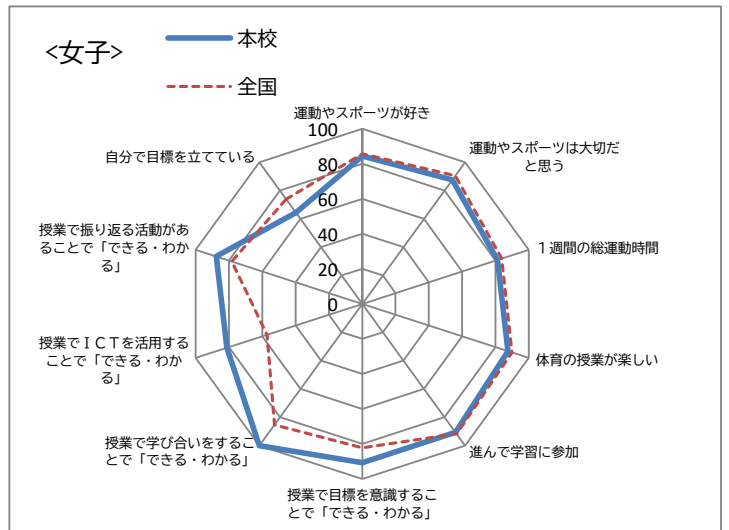
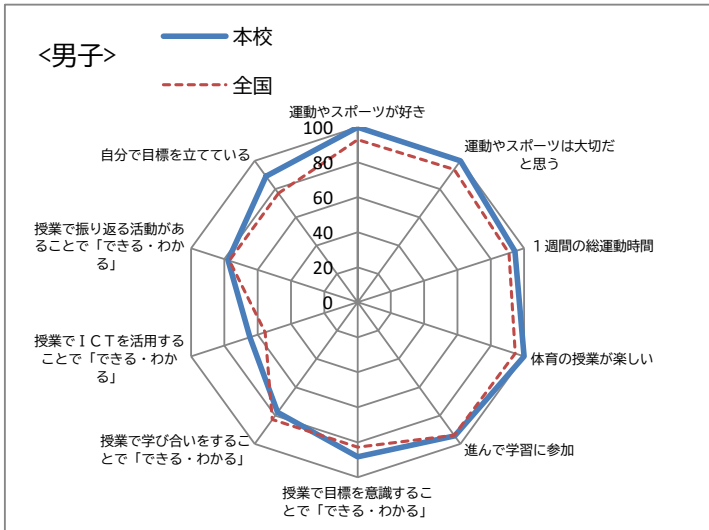
本年度の結果	握力	上体起こし	長座体前屈	反復横とび	20mシャトルラン	50m走	立ち幅とび	ソフトボール投げ	体力合計点
全国	16.13	19.00	33.98	40.60	46.92	9.48	151.13	20.52	52.59
本市	16.30	19.17	34.49	40.75	49.29	9.48	152.47	21.39	53.38
本校全国平均以上の種目	○		○	○			○		

<女子>

本年度の結果	握力	上体起こし	長座体前屈	反復横とび	20mシャトルラン	50m走	立ち幅とび	ソフトボール投げ	体力合計点
全国	16.01	18.05	38.45	38.73	36.80	9.71	144.29	13.22	54.28
本市	16.35	18.36	38.88	38.78	39.26	9.70	145.97	13.51	55.18
本校全国平均以上の種目	○	○	○	○	○	○			○

4. 運動習慣や生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要

質問紙調査レーダーチャート



質問紙調査の結果分析

男女ともに、ほとんどの項目で全国と同程度か上回る結果を得ることができた。特に男子に関しては、昨年度ほとんどの項目で全国を下回っていたので、大幅な改善が見られる。また、男女ともに、「めあてを意識すること」「友達との学び合い」「ICTの活用」「振り返り」については、昨年度よりも大きな伸びが見られる。これは、スクールプランの体力の取組において、運動時間の確保、個々の目標をしっかり持たせること、学び合いの場の設定、振り返りの充実等に努めた成果が表れていると考える。今後も「わかる」「できる」が実感できる授業づくりに取り組むとともに、運動習慣定着のための取組の工夫や、家庭への啓発等も積極的に行っていきたい。

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科(授業)に関する取組(全校で・学年で・学級で)

- ・体育科の授業では、十分な運動時間の確保や体力向上プログラムの有効活用などを通して、体を動かす楽しさや喜びが十分に実感できるような授業展開の工夫を行う。
- ・個々の目標の設定、友達同士やチームで互いに高め合う活動の充実、振り返りの場における子どもの頑張りや成長に対する評価、タブレットをはじめとするICT機器活用の推進等を図ることで、より達成感や満足感が得られるような授業展開に努める。

② 運動習慣等に関する取組(1校1取組)

- ・1学期は小倉中央オリンピックとして、期間を設けて全校で新体力テストに取り組む。2学期は、小倉中央スポーツ大会に向けて計画的に練習に取り組むことで、体力の向上とともに、普段の学習の成果が無理なく発表できる機会とする。3学期は、「体力向上週間」として縦割りグループで大縄に取り組む体力の向上を図る。
- ・常時体力を測定できる「体力テストコーナー」を設置し、自己の健康や体力への関心を高めるとともに、運動習慣の定着を図る。